

No.5 撮影すると部材情報(材質・製造年月日等)が確認できる技術が欲しい

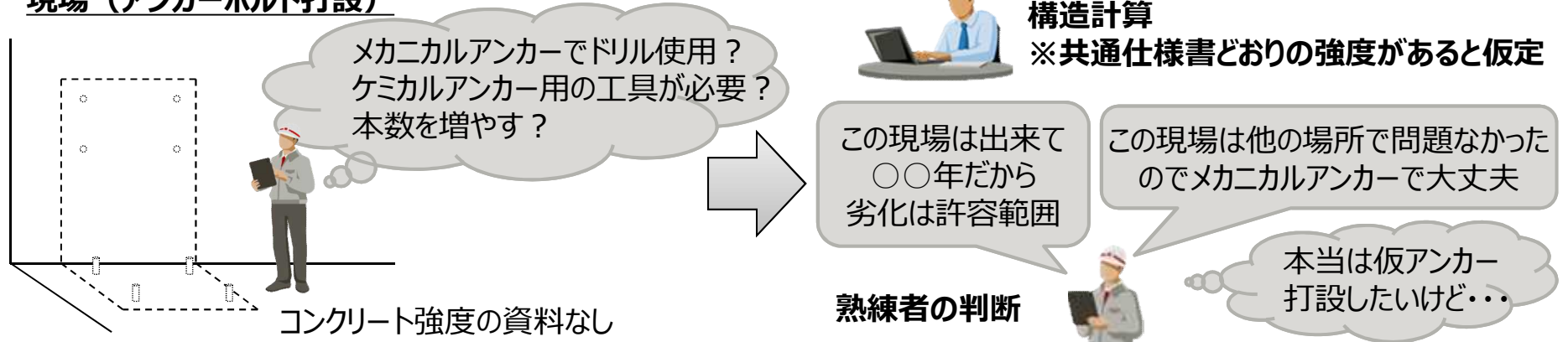
ニーズの概要

- 機器設置や撤去の際、電源、通信ケーブル端子、材質や工法が完成図書どおりかが不明 ⇒ 複数の完成図書から現状を比較 (情報に抜けはないか? 最新か?)
- アンカーボルトの打設に必要な工具が不明 ⇒ 仕様書どおりの強度があると仮定した構造計算や熟練者の判断(材質や内部劣化がわからない、設置場所は問題ないか?)

現場 (機器撤去、設置)



現場 (アンカーボルト打設)



No.5 撮影すると部材情報(材質・製造年月日等)が確認 できる技術が欲しい

既存技術

- ARマーカを活用して現場で点検手順や注意事項、文書等の情報が参照可能な技術です。
- 課題:配管、ボルト位置を確認するために3D-CADと連携した詳細な位置情報を表示したい
- 課題:関連する完成図書を確認するために電子納品された情報と連携したい

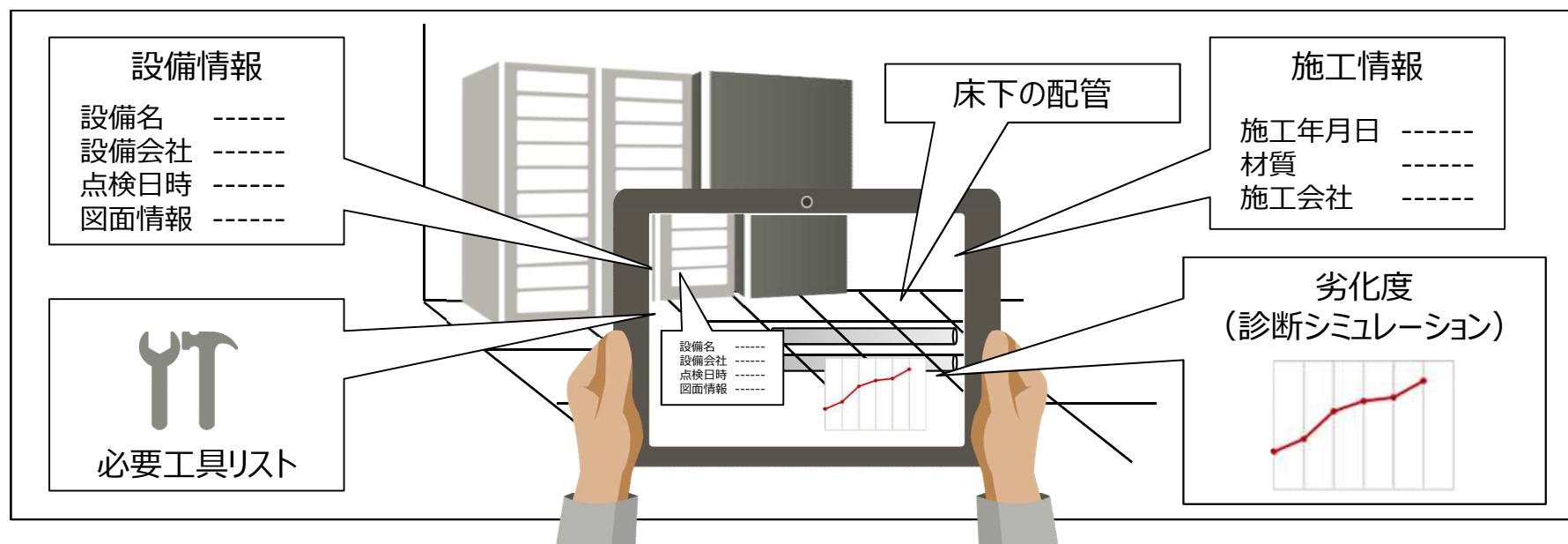


設備保全でのAR活用例

No.5 撮影すると部材情報(材質・製造年月日等)が確認できる技術が欲しい

期待するシーズ

- 既存機器の最新の情報が現地でわかる。(完成図書の結合)
- 設置場所の材質・内部劣化のシミュレーション結果などを表示することで、設置場所変更や据付固定方法(ボルトの種類変更、固定箇所)が判断できる。



設置場所や強度が確認でき、高品質かつ安全な構築が可能となります！！